第30回 関市私の主張大会

「第30回関市私の主張大会」が２月４日、市役所で開催されました。これは市内の中学２年生が、学校生活や日常の体験から自分の考え方や生き方、将来の目標などについて意見発表するものです。この日は市内の全中学校から各校代表11人が集まり「私の主張」を発表しました。

最後に、同大会の生徒運営委員長から「人と人とがつながりあうためのあいさつ運動についての提言」が発表されました。

ここに、生徒たちの「私の主張」の要旨を紹介します。

（発表順、敬称略）

照会先 学校教育課 ☎ 23-8125

▲大会の模様は各中学校へ中継されました

みんなに『ありがとう』を

下有知中学校　辻（つじ）　歩美（あゆみ）

何気なく使っている言葉には、人を傷つけるものや人を温かな気持ちにさせるものがある。学級活動の時間で仲間に受け入れられるか不安な気持ちの中で、勇気を出して発言した。その後、「歩美さんのおかげで話し合いが進んだよ。ありがとう」と言ってくれた友達の言葉により温かな気持ちになり、自信がもてるようになった。私に、勇気と温かい気持ちをくれた学級の仲間、「ありがとう」。

私は逃げない

富野中学校　山口（やまぐち）　奏（かな）

私は、今までたくさんの方に支えられてきた。病気と闘う私に笑顔で根気よく治療にあたってくれた看護師さん。夢の実現のための努力が足りない私を諭してくれた母。周りの人に感謝する心をもち、看護師になるという夢に向かって努力していきたい。そして、どんなときも逃げない自分になる。

祖母が教えてくれたこと

小金田中学校　長谷部（はせべ）　美穂（みほ）

先日、祖母が亡くなりました。あの時こうしていればよかったなどの気持ちが頭をかけ巡りました。当たり前だったことを覆す人の死は、防ぐことはできません。だからこそ、そうなる前に人を大切にすること、「失って後悔するなら、失う前に思いやる」ということを祖母は教えてくれました。私は、周りにいる全ての人を大切にしていきたいと思います。

『才能』にとらわれない心

上之保中学校　多治見（たじみ）　真以（まい）

人は、生まれつきの才能で優劣が決まり、それは当り前のことと思っていた。しかし、ある本との出会いをきっかけに、「私には才能がない」と決めつけている自分に気づいた。部活動で活躍する仲間にも、よく観察すると努力を惜しまない姿がある。才能にとらわれて簡単にあきらめるのではなく、興味をもち、努力を続けることを大切にしていきたい。

大切な仲間

桜ヶ丘中学校　森本（もりもと）　滉一（こういち）

私は一緒に遊ぶ友達や気が合う友達を「仲間」だと思っていた。しかし、学校生活で、なかなか自分の気持ちが相手に伝わらず、思うように物事が進まないことがあった。でも、そんな仲間に関わっていく時、自分が成長していけることに気づいた。「自分を成長させてくれる人」が「本当の仲間」だと思うようになった。これからも仲間と関わり続け、自分を成長させたい。

家族が私にくれたもの

洞戸中学校　林（はやし）　美月（みづき）

家族や仲間の大切さに気づかなかった私を変えてくれるきっかけとなった妹の誕生。そして、出産の場に立ち会わせてくれた母の願いに気づいたことで、家族の大切さ、命の尊さを知った。また、職場体験での出会いから将来の夢がもて、笑顔・思いやりを私のテーマとして、夢の実現に向けての新しいスタートを切ることができた。

ふるさとのバトン

板取中学校　長屋（ながや）　徹（とおる）

「大人になったら不便な板取を離れよう。」そう思っていた。しかし、過去にもちあがった板取ダム建設について学習するうちにこの考えは大きく変わった。故郷板取を愛し、必死に守ろうとした先人の熱い思いが伝わってきたからだ。僕も故郷板取を守りたい。これからは、森林のことについて専門的に学び、板取の発展に貢献したい。

将来の自分

武儀中学校　池浦（いけうら）　サユリ

2日間にわたる職場体験で不思議に思ったことは、職場の方がなぜいつも笑顔でいられるのかということだった。体験の中で、「患者さんのため」「お年寄りの方のため」という言葉を聞いた時、「誰かのため」だから、笑顔でいられるのかと感じた。まだ、将来の夢は決まっていないけれど、「人のためを考え動ける人になる」ことを目標にがんばっていきたい。

笑顔をくれる存在

旭ヶ丘中学校　多田　梨納（ただ　りな）

これからも私は常に笑顔でいる事を心がけていきたい。一人でも多くの本当の笑顔を見せあえる仲間に出会えるように、これからも笑顔で生きていきたい。

今、私に笑顔を与えてくれる仲間に感謝の言葉をおくりたい。「部活のみんな、ありがとう」、「２年生のみんな、ありがとう」、「２年１組のみんな、ありがとう」。

幸せの道案内

緑ヶ丘中学校　玉田（たまだ）　真穂（まほ）

職場体験から、患者さんの病状と思いに寄り添って対応することの大切さを痛感し、患者さんの笑顔に接して患者さんを幸せに導く仕事に就きたいと思った。病院のたくさんの仕事の中で、私は薬剤師になって患者さんの痛みや苦しみ、不安を取り除いてあげられるようになりたい。そのために日常生活から思いやりをもち、実行に移すことを積み重ねたい。

言葉にすることの大切さ

武芸川中学校　矢田（やだ）　紗里奈（さりな）

言葉が心に与える影響の大きさを体験して、自分の言葉に責任をもつことや、素直な気持ちを言葉にして相手に伝えることの大切さを実感した。自分の気持ちをきちんと言葉にする力を付けていきたい。そして、相手に対して反省や感謝の気持ちをしっかりと言葉で伝えて、相手も自分も気持ちよく生活できるようにしたい。

発表者の全文は、市ホームページの
「【市民のひろば】まなびセンター」➡「【関連リンク】がんばる関の子」➡「第30回私の主張大会」をご覧ください。